

無と死と愛

もっちープリンス

無は全てを個にする

死は全てを虚にする

愛は全てを温にする

無があるから死があるから愛がある

人間は生命というものを体中に感じながら

そう母親の胎内に造られた頃から

無と死と愛の宿命を背負う

いつしか僕らは大人になって

生命というものを純粹に捉えられなくなって

携帯電話の電話帳には人々の名前が

アミーバみたいに増幅してゆき

でも個と虚が愛を生み出す

宇宙の無情は地球に降り注ぎ

流れ星が今では星となった隣人の歴史を称えるためかのように

隣人の病室からのメール

枯れ果てた木の葉のような隣人

メール受信欄

数あるアミーバ達の中で灰色に映る

忘れていく数列のようなメール受信欄

人の記憶

うつすら、うすれていく悲しきサガ

未だに残る死した父母のメール受信歴

携帯電話に触れている指が無性な衝動と共に動き出す

メールを打っている

死した父母に打っている

何通も何通も打っている